

## ＜中央スポーツ杯甲子園大会 リーグ戦試合方法＞

1. 大会方法  
中学校野球部・クラブチームを各ブロックにわけて総当たりのリーグ戦を行う。  
リーグ戦の各ブロック1位チームが決勝トーナメントに進む。  
決勝トーナメントは8チームにて実施する。  
各ブロック2位チームの失点率によりワイルドカードで2チームが決勝に進出できる。  
なお、全試合終了していないブロックにワイルドカードは適用しない。
2. 試合方法  
①リーグ戦は12月1日～1月31日までの2か月間で行う。  
終了できないブロックは、その時点で試合数の多いチームを1位とする。  
②決勝トーナメントは2月中に終了する。
3. リーグ戦順位の決め方  
①勝ち点の多いチームを上位とする。  
勝利3点 引き分け1点 負け0点  
②勝ち点と同じ場合は**失点率が低いチームを上位**とする。  
※失点率の計算 総失点÷総守備回数  
(例) Aチーム 総失点(8点)÷守備イニング(12回)=0.666  
Bチーム 総失点(9点)÷守備イニング(14回)=0.642  
→ 失点率の低いBチームが上位となる。  
③失点率と同じ場合は**得点率の高いチームを上位**とする。  
※得点率の計算 総得点÷総攻撃回数  
(例) Aチーム 総得点(8点)÷攻撃イニング(12回)=0.666  
Bチーム 総得点(9点)÷攻撃イニング(14回)=0.642  
→ Aチームが上位となる。
4. リーグ戦順位の特殊な例  
3チーム(あるいは4チーム)の試合すべてが0対0の引き分けの場合  
以下の順序で進出チームを決める  
①守備イニングの多いチームが上位  
②攻撃イニングの少ないチームが上位  
③抽選 抽選方法は最終出場選手9人による同時ジャンケンとする。
5. 試合時間  
試合要項 2参照  
リーグ戦・決勝トーナメント共に、90分を過ぎた場合、次のイニングに入らない。
6. 延長戦  
試合要項 4参照  
リーグ戦は延長を行わず引き分けとする。  
決勝トーナメントは特別延長(無死満塁継続打順)を2回まで行う。  
それでも決着しない場合は最終参加の9人による同時ジャンケンで決定する。
7. 審判  
リーグ戦は出し合いとする。部員による審判は認めない。万が一審判がない場合はブロック長チームとそのブロックのクラブチームで審判を行う。
8. その他  
試合日程の調整は、ブロック長のチームへ協力をお願いします。

# 中央スポーツ杯甲子園大会 大会要項

- 1 大会期間は12月1日～1月31日までにリーグ戦を終了し決勝トーナメントは2月中に終了する。
- 2 試合は7回戦とし、90分を過ぎて新しいイニングに入らない。攻守はジャンケンとし、ベンチはグラウンドの責任者の指示に従う。
- 3 得点差によるコールドゲームは、5回以降7点差とする。(ただしリーグ戦はコールドを適用しない)
- 4 **リーグ戦は延長戦は行わず**(ブロック内のチーム数が2チームの場合特別延長戦を行う)、7回終了時又は制限時間を過ぎて同点の場合は、タイブレークゲームとして正式試合を打ち切り特別方法を適用し試合を続行する。特別方法は最大2イニングまでとし、勝敗が決着しない場合は最終出場選手9名によるジャンケンで勝敗を決する。尚、決勝戦は2回までの延長を行う。  
**<特別方法>継続打順で、前回の最終打者を一塁走者とし、二塁の走者は順次前の打者とする。**  
すなわち、無死1・2塁の状態にして、得点の多いチームが勝ちとする。  
勝敗が決しない場合は、更に継続打順で繰り返す。
- 5 降雨、日没等による正式試合の成立は4回完了時とする。また、それ以前はサスペンデッドゲームとする
- 6 選手登録に人数制限はないが、試合当日に出場できる選手は18名とする。なお、控え選手(最大9名)は忘れずに記入すること。
- 7 抗議のできるものは、監督と当該プレーヤーとする。(判定についての抗議は認められません)
- 8 監督はグラウンドに出てアドバイスができる。  
タイムは1試合3回までとする。
- 9 ベンチ入りは監督、コーチ2名、代表者、スコアラー、引率責任者の6名とし、その際選手と同じ帽子を着用すること。(ユニフォームでなくても可)
- 10 捕手はレガース、プロテクター、ヘルメットを着用すること。また、打者、次打者、走者は両側にイヤーフラップのついたヘルメットを着用すること。尚 コーチャーは任意とする。
- 11 グラウンドルールはグラウンド担当者および審判長に従ってください。
- 12 原則として試合開始時間に集合しないチームは棄権扱いとする。
- 13 ボールはケンコーM号球として、それぞれ出し合いとする。  
ただし、準決勝以降の試合は大会本部が提供する。
- 14 審判員は出し合いとする。原則球審はビジターチームとする。(球審がいない場合ブロック長チームが行う)
- 15 原則的に学校行事及び市主催の大会以外は日程の変更を認めない。
- 16 投球制限については、指導者は選手の健康上の理由から基本的に100球を目安に交代させる。
- 17 上記以外は全日本軟式野球連盟の野球規則のとおりとする。